

■被覆資材を利用したエダマメの5月出しトンネル早熟栽培

トンネルや被覆資材等を組み合わせた、エダマメの5月出しトンネル早熟栽培に関する研究の一部をご紹介します。

品種‘サッポロミドリ’を用い、2003年1月30日および2月14日に128穴のセルトレイに播種して温床で育苗した後、それぞれ2月13日、2月27日に栽植密度26.7株/m²、2本植えて移植しました。被覆および保温は、有孔ポリトンネル（Ⅰ）を基本として、これに保温ビニル（Ⅱ）、不織布のべたがけ（Ⅲ）、水封ダクト（Ⅳ）を組合せて栽培しました。

まず、収穫日はいずれの播種期でも全ての被覆・保温手段を組合せたⅠⅡⅢⅣ区で最も早く、1月30日播種（2月13日移植）では5月4日（図1）、2月14日播種（2月27日移植）では5月13日となりました（図2）。他の試験区に比べると5～16日、あるいは3～13日も早まり、早進化には保温ビニルおよび不織布のべたがけの効果が大きいことが分かりました。

また、莢の収量はいずれの被覆・保温方法を用いた場合にも2月14日播種（2月27日移植）で高く、1莢当たり2粒以上の上莢の割合も高くなる傾向がみられました。なお、今回の試験では、開花期が1月30日播種では3月下旬から4月上旬、2月14日播種では4月上旬から中旬となりました。栽培期間中の日中の温度はトンネルの開閉による換気で調節できますが、夜間の温度は被覆・保温資材によるところが大きく、栽培

前～中期および、着莢を左右する開花時期の最低気温が、莢の収量に大きく影響を及ぼしているものと考えられました。なお、茶豆や黒豆等の品種や、育苗方法についても引き続き検討中です。

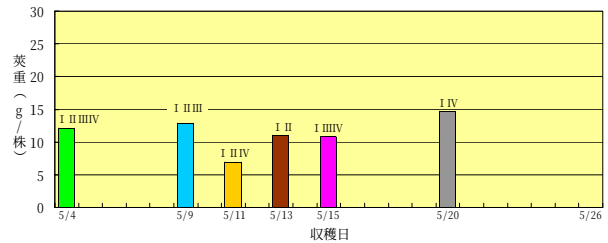


図1 各区の収穫日と収量（1月30日播種）

注1)平成15年2月13日移植

注2)Ⅰ:有孔ポリトンネル Ⅱ:保温ビニル Ⅲ:不織布べたがけ Ⅳ:水封ダクト

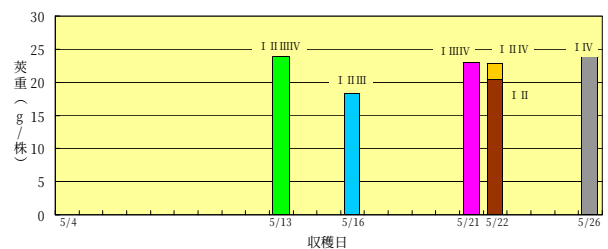


図2 各区の収穫日と収量（2月14日播種）

注1)平成15年2月27日移植

注2)Ⅰ:有孔ポリトンネル Ⅱ:保温ビニル Ⅲ:不織布べたがけ Ⅳ:水封ダクト

〔園芸システム科 小西 弘晃〕